
「胆膵癌の survivor 生存率を用いた長期生存に寄与する因子の検討」に関するお知らせ

このたび、総合病院国保旭中央病院（以下、当院）で診察を行った患者さんのカルテ情報等を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、当院病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2006 年 10 月 1 日から 2021 年 4 月 30 日の期間で、当院の外科（以下；当科）において膵癌および胆道癌（胆嚢癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌）に対する外科的切除をお受けになられた患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

胆膵癌は最も予後不良な癌であるとされており、その理由の一つに根治的に癌が切除できても、再発する確率が比較的高いことが挙げられます。また切除後早期に再発を来してしまった症例では、その後の予後が非常に悪くなることが知られています。しかし一方で、術後に長期間再発なく経過された症例では、その後の再発率が低くなる傾向にあることも経験的に知られています。このような、ある一定期間、無再発で経過された方の、その後の生存率のことを、survivor 生存率と呼びますが、膵癌に関してはこの survivor 生存率は詳細には検討されていません。

今回我々はこの survivor 生存率を検討することにより、長期間の生存が期待できるような、無再発の期間を検索することを目的としています。この期間を検索することができれば、術後の抗がん剤治療の適切は期間や、適切な通院間隔などの検討にも役立てると考えています。またその時点での今後の再発率や生存率を具体的に数値化することによって、患者さん自身の心理的安心が得られる可能性があると考えています。

3. 研究期間

病院長の許可後～2028 年 12 月 31 日

4. 利用または提供の開始予定日

2026 年 6 月 4 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

当科における病院診療録の記載内容を用いて研究を行います。そのなかには、患者さんの身体的背景、病気の情報、検査所見、画像所見、手術記録、術後経過の詳細が含まれます。

※この研究で得られた患者さんの情報は、当科において、研究責任者である谷圭吾が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

※本研究で得られた情報は、当院もしくは共同研究機関における将来の研究で二次利用する可能性があります。

2. 試料・情報の取得方法

膵癌に対する切除治療をお受けになられた患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- A) 埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 研究代表者 竹村信行
- B) 防衛医科大学校病院 肝胆膵外科 研究責任者 岸庸二
- C) 総合病院 国保旭中央病院 外科 研究責任者 谷圭吾

4. 試料・情報の管理責任者

＜提供元機関＞ 【防衛医科大学校病院】 岸庸二

【総合病院 国保旭中央病院】 谷圭吾

＜提供先機関＞ 【埼玉医科大学総合医療センター】 病院長 別宮好文

5. 情報の提供方法等について

提供元機関より、パスワードをかけた電子ファイルを、メールで送信してもらいます。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

総合病院国保旭中央病院 外科

〒289-2511 千葉県旭市イの 1326 番地

担当（当院の研究責任者） 外科 谷圭吾

TEL：0479-63-8111（代表）

○研究課題名：胆膵癌の survivor 生存率を用いた長期生存に寄与する因子の検討

○研究代表者：埼玉医科大学総合医療センター 肝胆膵外科・小児外科 竹村信行